

吾妻溪谷

ハッ場ダム

2003.9 No.4

森林から
都市のいちを守っている

群馬版ダム宣言



約80年前、吾妻溪谷を訪れた若山牧水は、
詩人の直感を次のような一文に残しています。

「私はどうかこの溪間がいつまでも、この寂しさと深みとをたたえて
永久に茂っていてくれることを心から祈るものである。
ほんとうに土地の有志家といわず、群馬県の当局者といわず、
どうか私と同じ心で、このそう大でもない森林のために、
永久の愛護者となってほしいものである。
もしこの流れを挟んだ森林が無くなるようなことでもあれば、
諸君が自慢しているこの溪谷は、水が枯れたよりは
悲惨なものになるに決まっている。

(『川原湯から草津を経て渋峠へ』より)

群馬県の脱タムの火付け人にして、
緑の守人より。

会場のメッセージ

関口茂樹さんプロフィール／群馬県多野郡鬼石町町長。ダム所在市町村全国協議会会長。
町内にかかえる下久保ダムによって、ダム下流の三波石峡が見る影もない無残な川になっ
てしまったことから、「ハッ場ダムができれば吾妻溪谷も三波石峡の二の舞になる」と、国、
県に対して早くからハッ場ダム反対を訴えてきた。

鬼石町を県内陸
林の供給基地に
ということは、森林を守
るということ。自然の
物質循環を守ること。
群馬県にも、もっと
支援して欲しいん
ではないか。

子供は、川遊びも遊ん
でいて、清流に。
30年前、下久保ダムが
造られた時は、
...と中心。実はヒドイ事態
が、次々と起きてい
る。川が、断たれても
自然が、

奥多野有機農研では、
世界有機農業基準で、安全安心
の農産物を作っています。のり
皆さん、ぜひ利用して下さい。
(1)問合せ：鬼石町役場
Tel. 0274-52-3111

住民が
自分で守る
地域をつくる



関口 茂樹

台風10号が日本列島を縦断した8月9日、利根川支流烏川に計画されている県営倉
淵ダム建設の是非をめぐって、県と市民団体の初の公開討論会が高崎市で開かれました。

双方がテーブルについてダム問題を論じるのは初めてとあって、住民の関心は高く、
400人ほどが3時間半にわたる熱い議論に聞き入りました。

市民団体側が「県が想定する洪水流量は過大。烏川は堤防だけで治水が可能ではない
か。安全なほどいいというだけでは決められない時代になった。財産や環境なども考慮
して総合的に判断するべきだ」と指摘。県側は「洪水によって起こり得ることをすべて
防ぐ事が基本的な考え方だ」と安全性を強調して譲らず、議論は平行線のままでした。

ダムは洪水から私達の生命、財産を守り、田畑を潤し、工業用水、水道用水を供給す
るなど、治水や利水に大きな役割を果たしています。従って治水も利水も安全であるに
こした事はありませんが、ダム建設はそれと引き換えに大きな犠牲を生み出します。生
活破壊、地域の崩壊、そして取り返しのつかない大規模な自然破壊などで、そのことを
下久保ダムが私達に教えてくれます。

公開討論会で大熊孝教授（新潟大学工学部）が「川は地球における物質循環の重要な
担い手であると共に、人間にとって身近な自然で、恵みと災害という矛盾の中に、ゆっ
くりと時間をかけて地域文化を育んできた存在。一方、ダムは副作用の多い劇薬だ。出
来れば使わない方がいい。ダム建設は慎重に考えるべきだ」と発言すると、一瞬会場は
静まりかえり、そして大きな拍手が湧き起こりました。

治水問題は数理や物理が支配する河川工学の世界から、さらに生物学や生態学そして
哲学も加わって、私達が生かされる地球環境はどうあるべきか、子孫にどのような環境で
生活させたいかという価値判断なくしては語れない問題になってきたと思います。

安易にダムは造るべきではありません。私達の生命、財産を守る為に、ダム以外に方
法がないと心底思えるかどうか。胸に手を当て、今一度考えてみようではありませんか。

9月6日、川原湯温泉に於いて、全国自然保護連合の総会が行われました。ハッ場ダムの実態をぜひ他の仲間達にも見て欲しいと、千葉県自然保護連合の中山敏則さんらの呼びかけで実現したものです。その後開かれた下流の市民と地元住民の交流会は、互いの理解を深め合う、かつてない充実したものとなりました。

全国自然保護連合では、「ハッ場ダム事業の中止を求める決議」を採択しました。

全国自然保護連合もハッ場にNO!

〈地元からの声〉

代替地の建設が遅く、住民は櫛の歯が抜けたように出て行く。国は『犠牲者の出ない現地再建方式』(ダム湖の周辺に新しい街を作り、村落ごとにまとまって代替地に移住)と言ってきたが、あれは夢物語だったのか。

林地区では水没する20軒全てが移転した為、代替地が必要なくなってしまった

国のやり方に異を唱える地権者に対して、補償額で差をつけるなどの嫌がらせで住民に揺さぶりをかけてくる。かつてと何も変わらない

沢をそっくりつぶして工事用の立派な舗装道路を造ったり、防災ダムを造ったり…。そのため畑に清水が来なくなり、ワサビが作れなくなって国交省に抗議しても、『清水は自然に止る事がある』というふざけた返事しか返ってこない

〈下流市民の声〉

美しい自然に接し、ハッ場ダム反対の意をいっそう強くした。ヒトをはじめとするいのちを大切にしたい。ダムができてしまえば過疎化はさらに進み、ダムと一体となって整備されたインフラも無用の長物になってしまう。地域の活性化のための投資をさせていくことが大切。ダム建設と一体となった地域の活性化はありえない。今後も地元の方々と意思疎通をした上で、私達も国交省と話し合う場を設定し、都市住民としてハッ場ダム反対の意思表示をしたい。
(日本消費者連盟代表運営委員:富山洋子)

ダムは絶対できないと思う。国交省はハッ場ダムの関連事業で、皆の汗の結晶である税金を湯水のごとく使っている。それでもダムができないであの渓谷が残ればよいとしなければならない。まったく情けない話(千葉県自然保護連合代表:牛野くみ子)

夜の交流会では、二十数名、大いに盛り上げました。

地元で新たな動きが

長年のダム反対闘争に疲れ果てた地元では2001年、住民と国交省の間でダム建設を前提として補償基準が妥結。しかしその後国交省の誠意に疑問があるとして、水没4地区の有志が「国土交通省に約束を守らせる会」を結成。去る3月3日には「ハッ場ダム対策研究会」が、約束をキチンと守って欲しいと国土交通省ハッ場ダム工事事務所長宛てで請願書を提出しました。ところが半年経った9月現在になっても、返答はありません。地元では国に対する不信感がさらに拡がっています。

ハツ場の縄文遺跡を代表する

配石遺構は縄文人の祈りの場

長野原町は、縄文時代遺跡の宝庫です。遠く縄文人たちは、見事な自然に包まれた吾妻川沿いの台地にムラを営み、豊かな木の実や木の芽、さらには鹿、猪などの動物を狩って生活の糧としていました。こうした人々の生活の跡が次々と発掘調査によって発見されています。

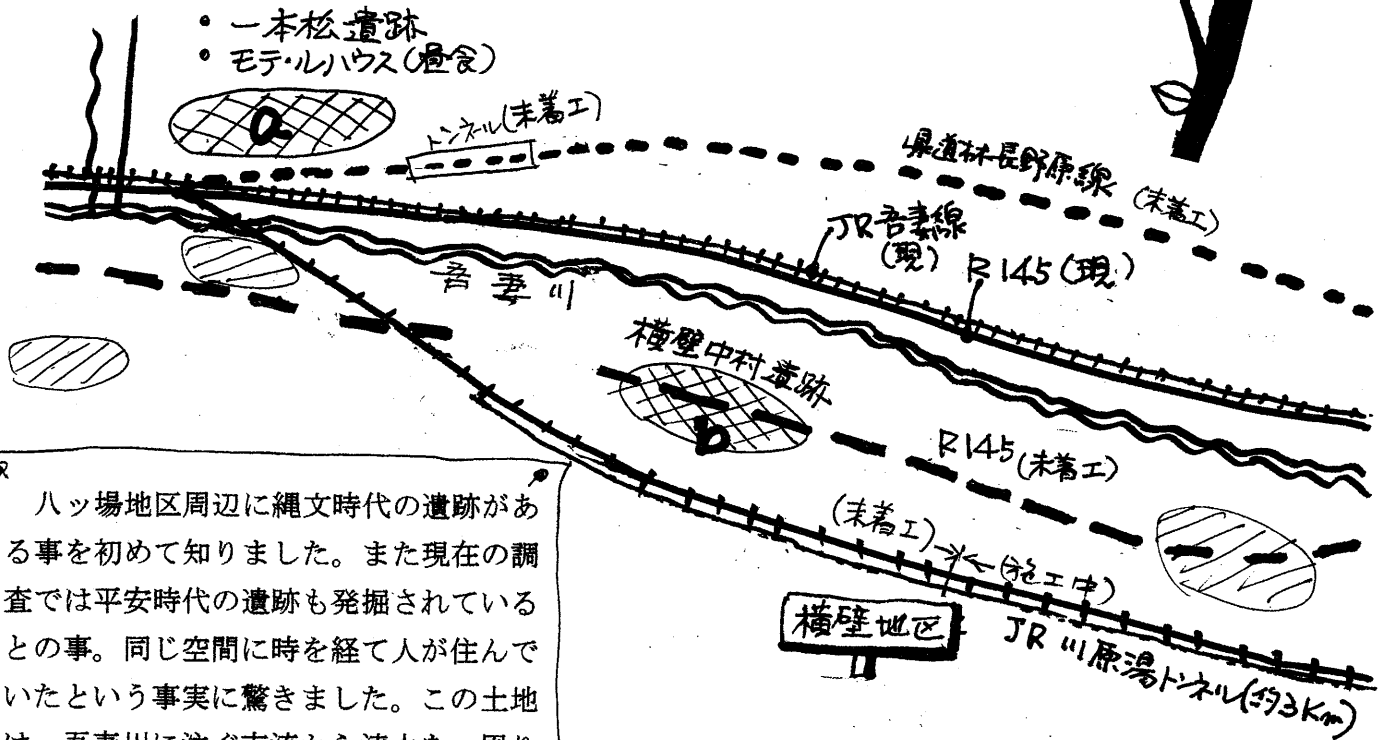
長野原一本松遺跡では、配石遺構の下やまわりから、墓穴や住居跡そして多数の柱穴がみつかっています。これらの遺構は、配石遺構をつくった縄文人たちの生活の跡でもあるのです。いうなれば、普段の生活と「祈り」の生活が一本化した様子が見事に現れた遺跡が長野原一本松遺跡なのです。

横壁中村遺跡は、壮大な「縄文の祈り」を語りかける遺跡です。「祈り」の場と「住まい」の場がどのように関係するのか・・・。身が引き締まる思いです。

(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の会報より)

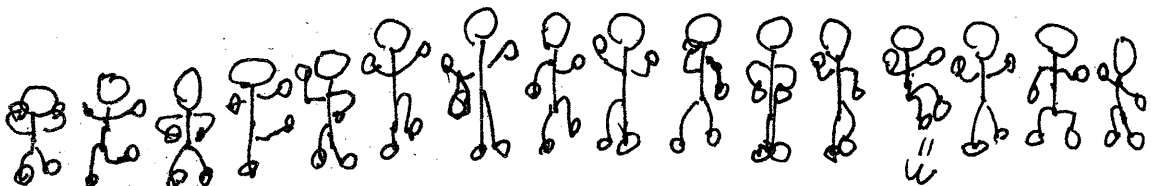
年報の部

ハツ場発掘調査事務所の案内の遺跡見学をしよう



ハツ場地区周辺に縄文時代の遺跡がある事を初めて知りました。また現在の調査では平安時代の遺跡も発掘されているとの事。同じ空間に時を経て人が住んでいたという事実に驚きました。この土地は、吾妻川に注ぐ支流から清水を、周りの豊かな森から木の実などの食糧を確保する事が出来、昔から自然が豊かで、人と自然が共生していた土地柄であった事を窺い知る事ができ、遺跡見学は大変刺激になりました。発掘調査のすぐ隣ではダム工事が進められていましたが、何だか奇妙な光景に映りました。

(八王子市・柳沢・大学生)



午後一部

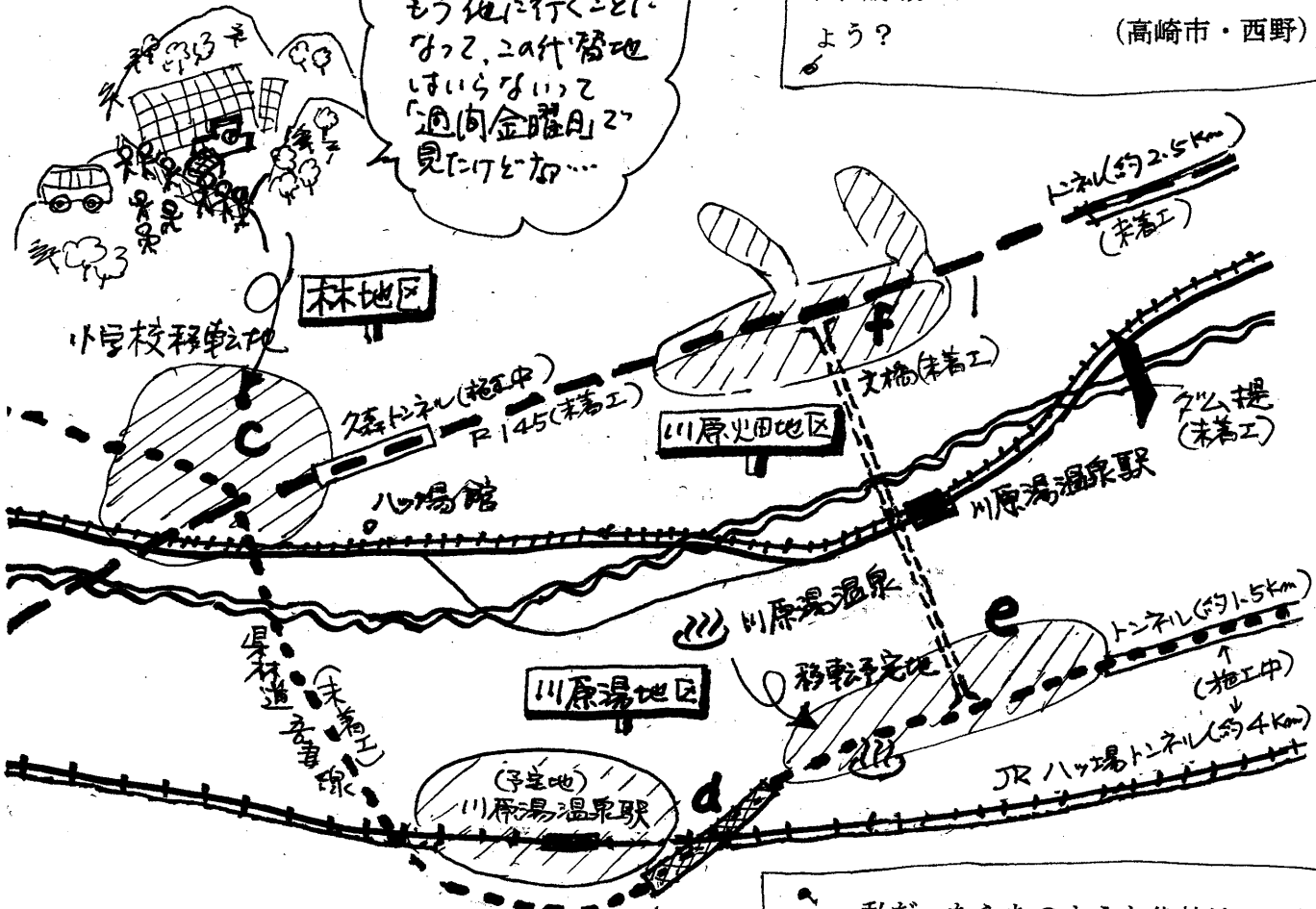
川原湯温泉は土木工事のテンコ盛りでした。トンネルあり、鉄道あり、宅地あり、わざわざ崩れそうな所を選んで削っている…これなら巨大砂防として八ッ場ダムが必要という主張も頷けます。だがこの国交省の泥こね遊びの為に国民の借金がまた増えると思うと、目の前が真っ暗になります。それにしても郷土を公共工事のテーマパークに変えられてしまった川原湯の人々の将来はどうなるのでしょうか？
(高崎市・西野)

わん!!
小学校か、おり金の底にあるぞん

大丈夫、この前の山は全部くっついて平らにしますから

八ッ場工事事務所の方の案内で、付帯工事現場を見学しました。

林地区の移転予定地は20Pはもう他に行くことになって、この代替地はいらなくて「過剰金曜日」で見つけたかな...



遺跡を歩く

ボウテラの木組みの山に... 5月?



私だったらあのような代替地には住みたくない—どうしても住めと言うのなら、国交省のお偉い方に1年住んでもらって、安全が確認されてからにします。トンネルの内部は、数年前の小樽のトンネル事故を思い出して怖かったです。ダムにしる遺跡にしる、国土交通省は過去の事には興味が無いのか...遺跡を潰
(次のページに続く)



(前ページから続く)

してでもダムを造りたいのかと残念でなりません。現地が何も言えない以上、周囲に訴えるしかありません。議員や権力者だけでなく、一般庶民にもターミナル駅でチラシを配るなどして訴えるべきです。私のような若い世代はダムの事など全く知りません。

ツアー終了後、川原湯温泉「王湯」で参加者の方と会い、ダムについて色々話しました。普段接触のない年代の方と話せてよかったです。

(安中市・北澤・高校生)

ダムにかけろお金と
国民に配ればいい

縄文遺跡はイノシシの落とし穴とか見られて面白かったです。でも「コンクリートの壁」を造っている作業がうるさくて、説明が聞き取れないところもありました。国土交通省の人の説明は、なんであんな事をするのかなと思いました。今にも土砂崩れが起きそうで怖かったです。あのダムにかけろお金を国民に配ればいいと思います。(前橋市・渡辺・中学生)

地元の人々の
参画を促すべき

周辺工事の段階でかくも大規模な自然破壊が進んでいることに、ただただ驚いています。いずれにしても日本(地球)の状況は、自然と共生する以前に自然の回復を必要とするところまで追い込まれていると思います。照葉樹による山林整備、田圃の蘇生を進め、国土の保水力を高めることで治山治水、そして利水を図らねばなりません。それが日本の進むべき道でもあります。

ダムに沈む川原湯周辺の人々の心情は、「ダムは反対だが、中止になれば保証金が入らないので反対できない」と聞き及んでいます。周辺の整備回復の費用を含めても数百億円…ダムの本体工事に比べれば遥かに少ない出費で済みます。こうした補償をも念頭におき、地元の人々の参画を促すべきです。今後の運動は下流域の埼玉、東京、千葉、茨城へ拡大していくにしても、地元が加わらない運動は求心力が働かないと思います。

(北軽井沢・神原)

八ッ場縄文遺跡
を共に(8/19)

参加アンケート
感想(要約)

ダム工事に感じた
人間の思い上がり

遺跡は担当職員も慣れた説明でわかり易かった。開発がなければ眠り続けるであろう遺跡群、これもよし。日の当たること歴史のページがより豊かになる、これもまたよしということか。全てを保存する事は不可能だ。

現在の多様な自然は、自然の営みの長い年月の結果としてある。ダム工事には、この多様さを単純化して自然改造できるとする人間の思い上がりを感じる。「夢のある新しい街づくりプラン」には、行政のしたたかさを改めて認識させられた思いがする。

(桐生・中島)

多くの人々が工事現場を 見たら意識が変わる

都市で生活している個々人の利便性の追及が、結果として大規模公共工事につながっている—ここまでして人は生きる必要があるのかと、巨大な建設機器を、そして開発現場を見て思いました。多くの方が現場に足を運ばれば、少しずつでも意識が変わると思います。

(武蔵野市・植田)

ダム工事の当事者は 下流の市民

団地造成やトンネル工事を目の当たりにし、生々しい思いがいたしました。まさに自然破壊です。あのような代替地に住みたい人がいるでしょうか？ ハッ場ダムの必要性に疑問があること、当事者は下流の市民であることを、もっともっと一般の方々にPRするの必要を感じます。ダムを要らないと言った田中長野県知事の事例などを、皆で学びたいと思います。

(桐生市・中島)

参加アンケート 感想(要約)

エコツアーを どんどん企画に

友人に誘われて何の気なしに参加した今回のツアーだったが、現場をみてビックリ。百聞は一見にしかずとはこのことか。少しでも多くの方に、まずは自分の目で見て欲しいと思った。

「ハッ場ダムを考える会」には、下流都県の人たちのためにどんどんこのようなツアーを企画してもらいたい。参加費千円は安すぎ。今まで市民活動に携わってきた経験から、この企画が赤字だったことは明らか。経済的に余裕がない会なのだから、企画モノはバス代などの経費を参加人数で割って算出しなければ、会員が要望する活動を続けていくことは出来ない筈だ。

手作りのお弁当を囲んで、参加者皆で語らったランチのひとつもよかった。エコツアーが環境について同じ思いを抱く人たちにとって、最高の出会いの場にもなる事を実感した。(渋川・加地)

ちゃんとでも ダムをストップさせないと

こんな山奥にも縄文時代には集落があったとは、結構住み易かったという事でしょうか。実際に遺跡現場に来た事がなかったもので、楽しい経験でした。

ダム工事現場は自然を造り替えてしまう事に何の抵抗ももたない人間のおごりを感じました。税金の巨大な無駄遣いというところでしょうか。埼玉、千葉そして東京の人々、議会にアピールしてなんとしてもダムをストップさせないと、後世への悔いが残ると思います。

(前橋市・植原)

工事現場が目も焼ける？

遺跡を見たくて参加しましたが、ダム工事現場を見て本当によかったです(重い気分にはなりませんが)。代替地とされる山を削って作った台地と背景の急峻なハゲ山が目底を離れず、その晩は眠れませんでした。地元の人が本当に納得した場所なのではないでしょうか？ 学校を何故あんな場所に移転したのか理解できません。

(前橋市・壁)

8/19のハツ場ダム視察エコツアー に同行の3人の記者の目(新聞)

群馬 よ み

建設が進むハツ場ダム

改めて疑問投げかけ

考える会が工事現場などを視察

長野原

8/28 群馬よみ

ハツ場ダムを考える会(横谷修会長、会員約百三十人)主催の視察会「エコツアー」ハツ場ダム視察を歩くが十九日、長野原町のハツ場ダム建設予定地で行われた。ツアーには県内外から約三十人が参加し、水没予定地の縄文時代の遺跡や、現在進行しているダム建設の工事現場などを見学した。

参加者は、多大な犠牲の下に建設が進むハツ場ダムの計画について改めて疑問の声を上げていた。



2003年(平成15年)8月28日(木曜日)

ハツ場ダム

工事現場や遺跡

見直し求める「おごり市民団体」

長野原で遺跡

工事現場を見学

「おごり市民団体」は、遺跡公園としてハツ場ダムを建設する計画をめぐり、見直しを求め、工事現場や遺跡を見学した。

ハツ場ダムは、国土地交通省が建設を進めるハツ場ダムの見直しを求める「おごり市民団体」(代表・横谷修)は、谷移東京理科大学の谷移教授を講師として、谷移教授の指導のもと、ハツ場ダムの工事現場や遺跡を見学した。

谷移教授は、「ハツ場ダムは、自然環境を破壊する危険がある」と警告した。また、谷移教授は、「ハツ場ダムは、自然環境を破壊する危険がある」と警告した。

谷移教授は、「ハツ場ダムは、自然環境を破壊する危険がある」と警告した。また、谷移教授は、「ハツ場ダムは、自然環境を破壊する危険がある」と警告した。

谷移教授は、「ハツ場ダムは、自然環境を破壊する危険がある」と警告した。また、谷移教授は、「ハツ場ダムは、自然環境を破壊する危険がある」と警告した。

谷移教授は、「ハツ場ダムは、自然環境を破壊する危険がある」と警告した。また、谷移教授は、「ハツ場ダムは、自然環境を破壊する危険がある」と警告した。



立第一小 畑地

喜怒哀楽

長野原町のハツ場ダム建設に伴う代替地の造成現場や、工事によって発見された縄文遺跡を市民団体の人たちが一緒に歩いた。

96年ごろから調査が始まったという「横壁中村遺跡」や「長野原一本松遺跡」は、国道145号を少し入った静かな山里にあった。巨大な柱穴が円形に並んだ「ウツドサイクル」や平らな石を敷き詰めた「敷石住居」、石で囲われた「配石墓」など、約4千年前の暮らしの痕跡を垣間見ることが出来る素晴らしいものだ。

自然や動植物と共存していた縄文時代の人々の目に映る吾妻深谷は、一体どんな景色だったのだろうか。目の前に映る白くコンクリートの壁を眺め、ふとそう考えた。

ハツ場ダム工事事務所の職員の家内、川原湯温泉の数

異常気象「地球の悲鳴」では

百以上にある代替地の造成工事現場に立った。大きなタンクや重機が忙しく動き回り、山肌を削り取り、谷を埋めている。

日頃の取材などで、吾妻深谷を頻繁に行き来し、多くの工事車両を見ていたが、目に見えない山の上でこれほど大規模な造成工事が進んでいたとは、正直驚きだった。

「この山を全部削って、あそこに埋めて平地にします。そして、あそこに道路が...」。工事関係者の説明はあまり耳に入らなかった。

人間は安全「便利」といった旗印の下で、多くの山を削り、穴を掘り、海や谷を埋め立てている。産業廃棄物などの不法投棄も後を絶たない。

日本は記録的な冷夏。欧州ではアルプスの水河も解け出すほどの猛暑。阪神や東北地方を襲った地震。有珠山や三宅島の噴火...。「言葉を持たない地球の悲鳴」と感じるのは、私だけだろうか?

(茨川通信局・高井和道)

カンパ(昨年秋~9/15)をお寄せ下さり、下記の皆様に、心より感謝いたします。
代表 樽谷修

- 秋草美俊、紋次郎、関口茂樹
- 長澤端、植原民子、飯島静男
- 嶋津輝之、猪俣俊治、近藤洋一
- 北澤真理子、落合延孝、金子賢
- 黒須俊夫、小暮公孝、山路達雄
- 坂田雄輝、新開紘子、瀬山士郎
- 塩野谷孝四郎、滝沢俊治、小林薫
- 西菌大実、宇津野洋一、野上恭道
- 野村哲、小滝芳江、広田繁雄
- 牧山信、星野哲也、茂木英子
- 吉村駿一、深澤洋子、上柿俊子
- 柿澤さな江、大川正治、戸塚清一
- 全国自然保護連合会、犬塚隼人
- 浜松総枝(順不同、敬称略)

事務局にFAXと受信用携帯電話をのしこめて書いて下さりありがとうございます。
2/25 18時



「ハッ場ダムを考える会」のおすすめ本

☆ 『なぜダムは要らないのか』

藤原 信着 / 緑風出版 定価：2300円

脱ダム運動の盛んな栃木県で、市民運動が成果を上げています。去る7月31日、栃木県知事が県営東大芦川ダム計画中止を正式に表明しました。本書は、思川開発計画を住民の立場から批判してきた藤原信宇都宮大学名誉教授による渾身の力作で、栃木県のダム反対運動を知りたい方におすすめです。著者は田中長野県知事に請われ、長野県治水・利水ダム等検討委員を務めてきた研究者。「ハッ場ダムを考える会」会員でもあります。

☆ 『森と海とマチを結ぶ』

矢間秀次郎編著 / 北斗出版 定価：2000円

地球環境全体の危機が言われる今日、私達はともすれば無力感に襲われそうになります。しかし本書は、「人間は環境を破壊することもできるが、林系と水系を結ぶことによって逆に環境を豊かにし、ひいては経済や文化を豊かにする事もできる」とし、日本各地で現状を逆転する実践例を示してくれます。「山々の破壊はもとより、最終的にはその森林に依拠して成立している都市の存続も危うくなる」という言葉を読むとき、ハッ場ダム問題が大都市東京の未来と密接に結びついている事を再認識させられます。編者は荒川、多摩川、利根川を総合的に研究するATT流域研究所理事長。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

雑草の緑地帯がじつは...

事務局の花活けに、蓬の花が挿してありました。蓬の淡い緑の花穂が、幼い頃遊んだ原っぱの風を思い出させてくれました。

家の近くの緑地帯にも、今、蓬の花穂が勢いよく伸びています。他の区画は、サルビアやバラが手入れされて行儀よく並んでいるのに、ひと区画だけ手つかずのまま雑草が生い茂っているのです。

壺に挿してあった蓬をみてからは、雑草の一つ一つが目飛び込んでくるようになりました。青い星のような露草、アカザ、エノコロ草...よく見ると、ミツバチやシジミチョウ、トンボも飛んでいます。草むらに足を突っ込むと、バッタがキチキチ鳴いて跳び上がりました。

この小さいのちの楽園に、除草剤がふりかけられませぬように！ (洋)

9月になって忘れていた夏草。思いっきりやってきてようやく。ふと見上げたら、青い海いっぱい、大小の魚が群衆の泳いでいるようなうろこ雲——夏草、確かに秋が来ています。

足元の草むらには、アカザの穂が風に揺れています。この、アカザの穂の佃煮です。

<作り方>

- ・アカザの穂は洗って、半熟の粟(種になる、211g)を一緒に取る。
- ・酒・みりん・醤油を2:1:1で煮つめる。縄文土器の内側にも着いていて、このアカザの穂。一野原のアカザの食感が楽しめますよ。(全)

千葉が動く！！

ハッ場ダム見直し、習志野市議会でも

習志野市議会は6月30日、「ハッ場ダム事業の見直しを求める意見書」を採択しました。千葉県自然保護連合代表の牛野くみ子さん（習志野市在住）を始めとする市民達の働きかけが実を結んだもの。

千葉県の財政は47年ぶりの赤字決算で、財政再建団体転落一步手前。けれども県内各地では草の根の市民活動がジワジワと広がり、行政を変える原動力となっています。

習志野市に先がけて今年3月、ハッ場ダムにNo!を突きつけた佐倉市。実際に行政を動かすまでにどんな経緯があったのでしょうか？これから議会に働きかけたいという首都圏各地の皆さんに贈る、佐倉市からのレポートです。



—ハッ場ダムを考える千葉の会発足—

去る8月、いよいよ「ハッ場ダムを考える千葉の会」が発足。千葉県の追原ダム計画を2001年中止に追い込むなど、県内の脱ダム運動を着実に進めてきたメンバー達が、「首都圏最後の水がめ」とされるハッ場ダムストップの活動を開始しました。代表の北澤真理子さんは、「点から面へと変化してきた脱ダムの大きなうねりを、あの素晴らしい吾妻溪谷に届かせたい」「長く激しい反対運動に疲れ果てた地元の皆さんと、ハッ場を守るために手をつなぎたい。これからは人工物ではなく、自然そのものが経済の基盤になる時代」と語っています。

「千葉の会」では早速8月29日、要請文を持って千葉市議会の各会派を訪ねました。同会は今後、松戸市、成田市など県内の各市議会にも働きかける準備を進めています。

やんば

「ハッ場ダムの見直しを求める意見書」を

佐倉・習志野の両市議会に決議 → 堂本知事へ提出

千葉・松戸・成田・八街の各市も議会に提出か

のの

最初にのろしを上げた、佐倉市の場合・・・

佐倉市は地下水豊かな北総台地の中央に位置する、印旛沼湖畔の町です。東京から40キロ、通勤電車で1時間の便利さから、1970年代には人口が増加しましたが、現在は人口17万人余と落ち着いています。

市の今までの水道計画は、地下水65%、表流水35%の利用割合をハッ場ダム完成によって逆転させようというもの。美味しい地下水が飲める井戸33本のうち25本を使用できなくなる一さくら・市民ネットワークでは地下水の涵養と節水、雨水利用などの工夫をすればハッ場の開発水は不要と、行政に訴え続けてきました。一方、水道事業サイドでも、これ以上高価な表流水を買えば市民の負担が増え、水道事業経営も大変になると表明。ここ数年、市民の学習会に行政職員、議員も参加するようになっていました。市民と超党派の議員によって、地質環境やハッ場ダムの学習会が地道に積み重ねられた結果が、3月議会での「ハッ場ダム事業の見直しを求める意見書」採択です。

千葉県では、地盤沈下を防ぐ目的で地下水取水を規制する1962年の条例が未だに生きています。しかし地盤沈下がほぼおさまっている今、時代の状況に見合った条例の見直しが必要です。今期の議会には、新しい佐倉市の「地下水保全条例」を提案したいと準備を進めています。

さくら・市民ネットワーク 中村春子

千葉の動きがわかる おもしろホームページ

* 千葉自然保護連合 boso@js8.so-net.ne.jp

* 「市民ネットワーク・千葉県」にアクセス → 「県議の部屋」

■ 2003年7月18日(金) ハッ場ダムに行ってきました。

「現地の皆さんは、私達佐倉の住民がなぜこのダムに反対するのかご存知ですか？佐倉は水道の65%がおいしい地下水です。ところがハッ場ダムができると、その高くてまずくて危険なダムの水を無理やり買わされるので、せっかく豊富にある地下水の井戸を閉鎖しなければなりません。だから必死でダムに反対するのです」… (略) …

「キレイな自然を残してほしい、だからダムに反対」というだけでは、現地の人の思いを無視した「よその」の勝手な願いでしかない。でも、私達も、生活をかけた必死の思いで、このとんでもないダム計画に反対しているのだ。そこを、もっと地元の人たちに訴えていかなければ、共感できる運動はありえない。(以下略)

千葉県 Go!Go! <千葉県議、大野ひろみさんのページ>より

吾妻溪谷エコツアー 第2弾

— 地質学者とともにハッ場ダムを訪ねよう —

8月のエコツアーの後、「知っていれば、参加したかったのに…」、「友達を誘ってまた行きたい」などの声がいっぱい事務局に届きました。そこで、さっそく第二弾を企画しました。前回と同じ企画で、という御希望もありましたが、それはまた次回のお楽しみということで、今回は趣向を変え、紅葉に染まり始める吾妻溪谷を地質学者、中村庄八さんのご案内で訪ねます。

中村庄八さんは、県立高校の先生を勤める傍ら、地質学者の立場からハッ場ダムの問題を研究してこられました。溪谷に流れ込む40以上の沢の一つ一つに防災ダムが造られている現在、実際に現場を歩いて、地質学の視点からハッ場について考えてみませんか？



日時 : 11月2日(日)

集合場所 : 川原湯温泉駅 9時45分

柏屋旅館 10時00分

参加費 : 大人 2000円

子供 1500円

特急草津1号 万座鹿沢口行

川原湯温泉駅 9:41

特急草津6号 上野行 川原湯温泉発 15:19

普通 高崎行 16:08

特急草津8号 上野行 16:38

ハッ場ダムを考える会申し込み問い合わせ先



行動予定 : 柏屋で中村庄八先生に簡単な講義をしていただいた後、先生のご案内でフィールドワークに出かけます。3時までに終了の予定。



「吾妻溪谷は、そこを流れる吾妻川の数万年以上の歳月におよぶ浸食作用によってつくられ、屏風のような断崖絶壁を特徴とする。この流域は、クリ・コナラ群の自然林が多く、これらの樹木の若葉や紅葉は、岩壁、流木と一体となり、見事な自然景観を醸し出している…(略)…このような吾妻溪谷の地形や地層が、太古以来どのようにして造られてきたのかを知ることによって、より一層、溪谷の貴重さを理解していただければと思う」

総会の後 交流会

川原湯温泉(柏屋)に泊まって、地元の方々、小川明雄さん、会員どうしの話し合いをしませんか。気楽にご参加ください。

翌朝、紅葉の吾妻溪谷の散策が楽しめそうです。

参加費 : 10000円(宿泊代)

ご案内

ハツ場ダムを考える会

総会

2003年

日時：11月1日 13:00～13:50

会場：前橋市市民文化会館 4階 第5会議室

ハツ場ダム事業をめぐる状況は、この一年で、大きく動き出したようです。

下流の住民 自治体からは見直しの声や決議が出され、保証交渉が終盤にきている地元では、国交省の手のひらを返したような態度に、不満と不信の声があがっています。

このような中で、ハツ場ダムを考える会はどのような活動をしたらよいのか、会員の知恵を出し合いましょう。ぜひご参加ください。

資料代：500円



総会記念講演

なぜ公共事業は止まらないのか

時間：14:00～15:30 (総会会場にて)

講師：小川明雄

講師紹介

1938年東京に生まれる

1961年東京学芸大学英語科卒業。同年AP通信社入社。

その後、朝日新聞社に移り、アジア総局、アメリカ総局勤務を経て、外報部次長、論説委員

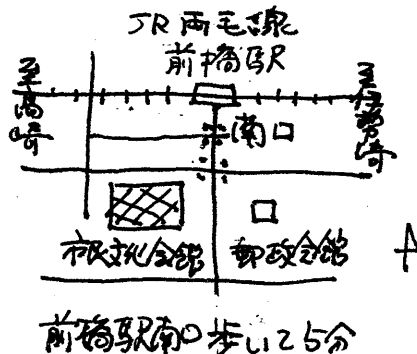
現在一朝日新聞社国際編集部編集委員

著書「都市計画 利権の構図を超えて」

「議会 官僚支配を超えて」(以上いずれも共著、岩波新書)

「いまアメリカを読むキーワード」(共著、ダイヤモンド社)

「公共事業をどうするか」岩波新書



＜小川さんからのメッセージ＞

考える会の総会での講演のご依頼(中略)、喜んで参上させていただきます。
また、翌日の川原湯温泉への訪問ももちろんよろしくお願いします。

公共事業がこの国の財政を破綻の淵に追い込んでいるのは周知の事実ですが、
不要なあるいは周辺住民の生活を破壊する公共事業が数多く相変わらず強行さ
れています。この不条理の実情と裏側を具体的にお話させていただきます。

ダムの付帯工事によってできた急峻な坂道を登りつめると、
若山牧水が危惧した悲惨な光景が眼下にひろがりました。
吾妻溪谷の兩岸の緑の山のいたる所に青いビニールシートや
赤茶けた地面があらわになった工事現場が見えます。
けれども、縄文の人々の祈りの対象だった丸岩をはじめ、
水墨画の世界のような峰々は、昔と変わらず大空を背景に屹立しています。
ひょっとして天の高みから、天狗がこの吾妻溪谷を
見下ろしているのかもしれない…。
溪谷沿いの谷底にへばりつくようにある道は、
昔から信州と上州を結ぶ大事な街道でした。
道の神、猿田彦を祀る川原湯神社、村落のあちこちに佇む道祖神や祠。
縄文遺跡からは、信州和田峠で採掘された黒曜石の矢じりや囲炉裏、壘棺、
イノシシの落とし穴まで発掘されました。
縄文遺跡に重なるように、平安時代の住居跡もみついています。
この溪谷に生き、この溪谷を行き交った人々の思いと共振する何かが、
現代に生きる私達の心の中にもあります。
私たちはこの手の内にある本当の豊かさを捨てて、
どこに行こうとしているのでしょうか？

**八ッ場ダムは、現在の計画では平成 22 年に完成の予定ですが
けれども本体工事はまだ始まっていません
次の時代の命のために、八ッ場ダムをストップさせましょう**

《**会員年中募集中**》

年会費(秋の総会から次の総会まで)／個人 1000 円、団体 3000 円
会員には年 4 回会報をお届けします。

《**カンパしてもいいなという方は…**》 どなたでもぜひ下記にお願いします
郵便振替口座番号 00550-2-32681 (加入者名・八ッ場ダムを考える会)

八ッ場ダムを考える会